

## 保護司国際研修に参加して

東京保護観察所 保護司 石上 美千代

平成29年1月24日、25日の標記研修に参加させていただきました。  
研修初日は、まず入所手続を済ませ、オリエンテーションの後、第165回国際高官セミナーの参加者との意見交換会となりました。

私たち保護司の研修参加の大きな目的は、事例を通して研修参加者の皆様に日本の保護司活動を紹介し、罪を犯した人の更生と犯罪防止の一手段として、参考になればという思いでした。

早速、国際会議場で、参加各国の国旗の並ぶ中、発表者が事前に作成したレポートを基に、日頃の保護司活動を発表しましたが、並大抵ではない努力で取り組む姿勢に、各高官の皆様が非常に興味と関心を持って聴講されている姿が感じとられました。

私の場合は更生保護施設職員ということで、保護観察処分に付され、あるいは少年院を仮退院した少年のうち、適当な帰宅先がなかったり、好ましい帰宅環境でないため更生を妨げるおそれのある者を、一定期間収容保護し、職員と起居をともにしながら、自立を目指して健全な社会人となるよう指導・援護する施設であることを説明し、事例を発表させていただきました。この事例の少年は、一生懸命努力をし、更生保護施設敬和園を出てからも更に努力して、高卒認定試験に合格し、夜間大学に学びながら、昼間は弁護士事務所の事務員の仕事をこなして、2度と再犯をしない人生を歩んでいるという話をさせていただきました。

意見交換会の後、夕食会、懇談会と続きましたが、私は英語が全くできず、心配でしたが、アジ研の教官が通訳して下さり、ミャンマー、ネパール、タイなどの高官から質問を受け、処遇者としてわかる範囲で答え、何とか理解いただけたと思いました。

2日目は海外客員専門家講義で、「米国における少年アセスメントセンター、ヘルスサービス」のテーマでお話をいただきました。

今回、この研修に参加する機会をいただけたことを関係の皆様へ感謝いたします。これからも微力ではありますが、少年の立ち直りに邁進してまいります。